

はじめに

国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会は、全国の連盟登録ジュニアヨットクラブと海外チームのジュニアセーラー達が一堂に会して、日頃鍛えた帆走技術とシーマンシップを競い合いその向上を図るとともに、海外チームとの交流により国内ジュニアセーラー達が国際感覚を磨き、その視野をひろげ、また地元地域の子供たちとの触れ合いを通して健全な水辺スポーツとしてのヨットを啓蒙、普及させて、生涯スポーツとしてのヨットの発展に貢献することを期して当連盟が主催して毎年実施しています。

本競技会は文部科学大臣杯、国土交通大臣杯が授与される国内唯一の大臣杯タイトルヨットレースです。

また、一般社団法人日本ジュニアヨットクラブ連盟 (以下 JJYU) の名称、設立趣旨にもありますように、クラブとして参加頂いて、クラブ対抗レースの上位クラブには連盟の主催する海外セーリング研修参加資格を授与するという会長特別賞を設けており、ジュニアヨットの普及とクラブ同士の親睦、そして国際交流を目的に開催する競技会です。

本年は大分県セーリング連盟と B&G 別府海洋クラブの協力の下、別府港北浜ハーバーに於いて初めての九州地区での開催となりました。

参加チームは、海外から招待のオーストラリア、ニュージーランド、香港、韓国の 4 クラブと国内では東京から九州、沖縄の 12 クラブを迎えて開催しました。

8 月 3 日の開会式、国際交流会は上記海外 4 チーム、国内 12 チームの 86 名の選手に、各クラブのコーチ、応援の保護者も 60 名を超え、運営役員 50 名余を加えて 200 名を超える規模となりました。



OP 級上級者のスタート



別府港北浜ヨットハーバー

練習会

開会式に先がけて行われた練習会には翌日にレース参加する殆どの選手が練習を兼ねて練習会に参加しました。練習会では運営役員も A・B 海面それぞれで運営体制の確認を行い、本レースに備えました。

開会式

今回開会式は暑さ対策もあり、別府港北浜ヨットハーバー内艇庫兼事務所の 2F 会議室という限られた室内で行いました。選手、指導者、保護者、大会役員、ご来賓の方々との距離が近かった為もありアットホームな式となりました。

競技会委員長 JJYU 伊藤雅宣専務理事の開会宣言から始まり、競技会会長の JJYU 石原伸晃会長の挨拶、JJYU 佐藤精知夫副会長からは別府出身の佐藤文生前会長についての、別府と JJYU との関わりを交えた歴史と少年ヨット憲章 (山中湖宣言) のお話がありました。

ご来賓としては、二名の方々にご挨拶を頂きました。業務多忙なところ大分県企画振興部高屋博様より心か

らの歓迎のお言葉を頂戴致しました。次に競技会の後援を頂いている別府市教育委員会教育長寺岡悌二様から激励の言葉を頂戴致しました。

ご来賓として協力団体から別府市観光協会会長梅野雅子様、後援団体から公益財団法人日本セーリング連盟副会長桑原啓三様と九州ヨット協会会長秋山雄治様をご紹介させて頂きました。

続いて少年ヨット憲章「山中湖宣言」を石原伸晃会長立会いの下、葉山町セーリング協会の4名、肥後滉佑くん、松岡尚吾くん、北岡湮さん、三浦海珠さん、選手宣誓をB&G 別府海洋クラブ岩下稔くんが力強い言葉で表現してくれました。

開会式終了後に恒例の安全講習会、競技運営説明会を行いました。



競技会会長の JJYU 石原伸晃会長の挨拶



JJYU 佐藤精知夫副会長の挨拶



大分県企画振興部高屋博様よりの歓迎のお言葉



別府市教育委員会教育長寺岡悌二様から激励の言葉



少年ヨット憲章「山中湖宣言」



選手宣誓



安全講習会



B 海面競技運営説明会



五十川大分県セーリング連盟理事長による A 海面競技運営説明会



国際交流会

国際交流会は開会式会場から場所を変えヨットハーバー前の北浜公園にて参加者は食事を楽しみながら、海外チームとの記念品交換、各クラブの紹介などなごやかに繰り広げられました。

今回のアトラクションはそうめん流し、マグロの解体ショーと APU（立命館アジア太平洋大学）エイサー団 いちゃりば様によるエイサーという今までにない演出で国際交流が出来た素晴らしい前夜祭となりました。開会式から混乱もなくスムーズな進行により予定通り 20：00 のお開きとなりました。



長野恭紘別府市長のご挨拶



マグロの解体ショー



手作りのそうめん流し



APU によるエイサー



香港チーム



韓国チーム



オーストラリアチーム



ニュージーランドチーム



プレゼント交換



全員で記念撮影

A 海面のレース状況

【8月4日（土）レース初日】

夏の別府湾は、概ね11時頃から14時頃までの間に安定した良い風が入ってきます。その風でレースをするつもりで準備していたら、思った以上に早く風が入ってきて予定より30分遅れて9時30分にD旗を掲揚。その30分後の10時に最初の種目国際420級/F J級の予告信号を掲揚しました。今大会の準備信号はU旗を使用しましたが、最初のスタートだったために選手に気合が入り過ぎたのか？ゼネリコとなりました。引き続きの再スタートでもUFDとなる艇が出るなど、積極果敢なスタートとなりました。引き続きのレーザー4.7はオールクリア、OP級上級者は1艇のUFDでした。

第2レースは若干南寄りに振れ、風速も少し上がりましたが軽風に終始しました。第2レース以降はスムーズなスタートとなり、選手の順応力に感心しました。第2レース終了時点で昼時となったため選手を陸に戻し、リセット。その間も良い風が続いており、午後のレースも風が続くことを期待し、国際420級/F J級を13時30分にスタートさせ、5分間隔でレーザー4.7、OP級上級者をスタートさせました。予想以上に早く入った風は、早くに落ち始め、レーザー4.7とOP級上級者は1マークのタイムリミット15分に間に合わずノーレースに。先にスタートした国際420級/F J級も下マーク付近で風が無くなりノーレースとなりました。その後海上で風待ちをしましたが、以降の風が期待できず14時53分にA P+H旗を本部船に掲揚し、初日は2レースで終わりました。

【8月5日（日）レース2日目】

初日に続き、早くから風が入ってくることを期待しましたが、朝から風のない別府湾でした。それでも風が入ってくることを期待して本部船は早めに出港し、風を待ちました。12時以降の予告信号は掲揚しないこととなっており、ぎりぎりまで判断を待つことにした矢先にそよそよ風が入ってきて、11時にD旗を掲揚し、11時35分に国際420級/F J級の予告信号を掲揚することができました。初日のようにゼネリコ

をされると困るので準備信号は黒色旗を掲揚。さすがにラインが下がりました。スタートする頃には風も上がり、ショートコースで設置したため30分程度のレースとなりました。

全クラスとも3レース実施できたのは、この時期の別府湾では十分な結果だったと思います。

成績は、国際420級は第2、第3レースで1位を取ったものの第1レースUFDだった男子チームを抑え、女子チームが1位、2位となりました。1位の市野瀬真理乃（別府翔青高2年）、内田桃花（別府翔青高3年）組は手堅いレースで優勝を勝ち取りました。

FJ級は、9艇中2艇の男子チームでしたが、1位、2位となりました。2年生ばかりがエントリーしたFJ級で優勝したのは甲斐滉貴・大川慶一郎（ともに別府翔青高2年）組でした。

レーザー4.7は香港の選手が1位、オーストラリアの選手が2位と終始上位で展開し、初日が終了。2日目の第3レースでトップフィニッシュを飾ったのは河野大陸（B&G別府海洋クラブ）。総合で日本人トップの3位に入り、地元の意地を見せました。

OP級上級者は全3レースを圧巻の走りでトップフィニッシュした幸野翔太（B&G別府海洋クラブ）が優勝。2位には下石雅楽（B&G福岡ジュニアヨット海洋クラブ）、3位に上田 瑞（葉山町セーリング協会）が入り、暑さがきつかったのか海外の選手は上位に入れませんでした。

猛暑が続く、選手にとってはハードなコンディションではありましたが、大きな事故なく終えたのは選手の頑張りや指導者や保護者の支えがあつてこそだと思います。運営スタッフの皆様も然りです。初めて九州での開催となった今大会は、選手の無限の可能性を感じながら、様々な想いも交錯していたのではないのでしょうか。東京オリンピックが間近となり、目指すものがすぐ近くに見えるジュニアセーラーが海外選手とレースができ、触れ合うことができたのは、今後のセーリングに対する姿勢にも大きな影響があると思います。選手の将来を期待し、指導者、運営スタッフの皆様、大変お疲れさまでした。



出艇前



OP級上級者のスタート



OP級上級者





レーザー4.7のスタート



FJ・420のスタート



B 海面のレース状況

今大会のOP級初級者の参加は、5クラブ18名で、うち4選手がチャーター艇でした。フィリピン選手がピザの関係で当初は参加予定ではなかったのですが、最終日のみ B&G 別府海洋クラブの選手として参加となりました。

【8月3日（金）競技運営説明会と練習会】

冒頭に、経験年数を確認しました。今年OPに乗り始めた選手は4名でそれ以外は2～3年の経験で、レースに初めて参加する選手も数名おりました。そこで、「レースを安全に、かつ楽しく臨んでもらうために、教育的な観点より海面で運営艇から指導を行う」ことを説明しました。

【8月4日（土）レース初日】

出艇前に、OP級初級者の選手及びコーチを集め、運営艇によるOP艇の曳航のやり方を実演により説明しました。同時にサポートボートに対して曳航の協力を要請しました。

これは前日の練習会での反省を踏まえてのことです。

D 旗掲揚後、まず A 海面の選手が出艇した後、B 海面の選手を出艇させました、

130 度、3 m/s の環境下、スタート・上・下・フィニッシュコースで第 1 レースのクラス旗を 10 時 18 分に掲揚しました。このスタートはゼネラルリコールとなり、再スタートとなりました。再スタートではスタートアウターをやや高めに設定し、オールフェアで 10 時 30 分にスタートしました、引続き、2 レースを順調に消化し、第 3 レースも 11 時 51 分に全艇フィニッシュし、ここで昼食をとるために、選手をハーバーに返すこととしました。

午後、A 海面より早く D 旗を掲揚し出艇し、1 度ゼネラルリコールがあったものの 13 時 56 分に第 4 レースをスタートしました。風速が 2m/s 前後まで落ち上マーク回航がトップ艇で 13 分を要しました。風速がさらに落ち、トップ艇が 20 分 45 秒でフィニッシュし、9 艇が完走したものの、6 艇がタイムリミットとなりました。これ以上の風は期待はできないと判断して、本日のレースを終了することとしました。

【8 月 5 日（日）レース 2 日目】

「別府湾は 11 時頃から風が出て 14 時ごろには落ちてくる」と言われるとおりの状態となり、朝から陸上待機としました。レースを実施できる時間を逆算しての D 旗掲揚の時刻を割り出して、出艇させました。

風速が弱いこと、予告信号は 12 時以降に発しないとの制約から、本日は 1 レースのみとのコースを設定し、第 5 レースに臨みました。

90 度、3m/s の風で、11 時 41 分にスタートし、トップ艇が 10 分強でフィニッシュしたものの、最終艇が 1 マーク以上の遅れとなり、タイムリミットにかかることが懸念されましたが、運営艇からの適切な指導のお陰で、無事フィニッシュしました。

第 6 レースを予告信号発信の

制限時間直前の 11 時 59 分に予告信号を発し、12 時 4 分にオールクリアにてスタートしました。レースも順調に推移し 12 時 25 分に無事終了しました。

結果は成績表に示す通りですが、葉山町セーリング協会の内田歩君が 6 レース中 2 位を 5 回占め、安定した走りで優勝しました。



曳航でレース海面へ



OP 級初級者のスタート



海外招待チームの状況

今年の競技会にはオーストラリア・ニュージーランド・香港・韓国の4か国からレーザー4.7級4名・OP級上級者8名の選手及びコーチ・父兄11名、総勢23名が参加しました。レース前日の国際交流会パーティーでは海外チーム選手と日本人選手が食事を共にしながら交流を深めていました。またアトラクションのそうめん流し・マグロの解体ショーでは海外チームの選手のみならずコーチ・父兄の方たちも大いに盛り上がっていました。

レース海面では各国コーチがコーチボートから自国選手へ積極的にアドバイスを出し、各選手は別府湾の猛暑にもかかわらず素晴らしいセーリングを展開していました。国際交流個人対抗レースレーザー4.7級では香港・オーストラリア選手が総合1、2位を獲得、OP級上級者ではニュージーランド選手が総合7位、海外チーム戦ではニュージーランドチームが優勝を飾りました。

各国コーチ・父兄からは大分県セーリング連盟・B&G別府海洋クラブ・別府翔青高等学校ヨット部の方々からのサポート・おもてなしがとても素晴らしいものであったとの感想を頂きました。また今回は大分県セーリング連盟のご手配で各国選手12名全員がホームステイでホストファミリー宅に2泊宿泊、各選手・父兄共にとても楽しい体験ができた大変喜んでいました。

医療救護部から

九州別府も連日30℃を越す猛暑の中の競技会となり、熱中症等を心配しましたが、開会式後の丸山晴久医師の安全講習会をはじめ、水分補給に関して十分な対策を取るよう参加選手、クラブの指導者に徹底したお蔭で、ほとんど問題なく競技会を終了することが出来ました。

アサヒ飲料株式会社ご提供の飲料水、お茶、サイダー等の飲物が競技会期間中に十分に配られたことも大きいと思いますが、今年は飲物が十分に行き渡るように追加で相当量を購入し配布しました。

下痢、腹痛の子供が3名、いずれも軽微なもので、救護ルームで体温を測定し、水分補給および仰臥位での休養で回復しました。これらは熱中症からくるもの或は過度の水分補給による水中毒でおこる下痢や腹痛でしたが軽微なものでしたので、特に問題はありませんでした。又、スロープでの転倒による肘・膝・足指の擦傷、靴擦れ、足裏擦傷等の軽い擦り傷が3名出ましたが、これも軽微で外用薬塗布で処置しました。

閉会式

競技会3日目（レース2日目）は風が吹かず猛暑・微風の中なんとか1レース終える事が出来ました。閉会式までの時間に艇の片づけや帰り支度をしながら、恒例の美味しいカレールーで作って頂いたカレーライスの昼食を楽しみ、手際よい成績集計もあり、閉会式は30分繰り上げて開始することが出来ました。

まず始めに佐藤精知夫競技会副会長が競技会会長の代理挨拶、続いて共同主催者、開催地の大分県セーリング連盟会長岩屋毅競技会副会長の挨拶、五十川浩司レース委員長による成績発表及び表彰に続き、高間博之プロテスト委員長よりレース講評を頂きました。一昨年度から新たに設けられました小澤吉太郎先生の

教えに沿うシーマンシップを称える特別賞には個人として宜野湾はごろも海洋少年団の赤嶺一彰さんと平良海咲さん、チームとして神奈川県から17名の選手で参加し統率のとれた行動で大会を盛り上げてくれた葉山町セーリング協会が選ばれました。

海外チーム指導者代表として海外チーム優勝のニュージーランドTristan Campbell コーチにご挨拶を頂きました。

お礼の言葉を大分県セーリング連盟顧問嶋幸一様から頂き、締めは堀井伸一競技会副会長の競技会終了宣言と来年東京若洲にて各クラブの選手、指導者と保護者の方々とまたお会い出来ることを約束して無事閉会式を終える事が出来ました。



岩屋毅大分県セーリング連盟会長のご挨拶



高間博之プロテスト委員長よりレース講評



小澤吉太郎特別賞（個人）宜野湾はごろも海洋少年団の赤嶺一彰さんと平良海咲さん



小澤吉太郎特別賞（チーム）葉山町セーリング協会



嶋幸一大分県セーリング連盟顧問のお礼の言葉

堀井伸一競技会副会長の競技会終了宣言

主な成績

小澤吉太郎特別賞 JJYU 創設者小澤吉太郎先生の教えに沿うシーマンシップに溢れた個人とクラブを表彰しました。

★個人：宜野湾はごろも海洋少年団の赤嶺一彰さんと平良海咲さん

★クラブ：葉山町セーリング協会（クラブ代表 青山義弘氏）

JJYU 会長特別賞 「国内クラブ対抗レース」の上位3クラブに JJYU 主催の海外セーリング研修参加資格を授与し、海外渡航費の一部を援助します。

第1位 葉山町セーリング協会（クラブ代表 青山義弘氏）

第2位 B&G 別府海洋クラブ（クラブ代表 濱本徹夫氏）

第3位 B&G 高松海洋クラブ（クラブ代表 九富潤一郎氏 代理 旭 康一氏）

国際交流クラブ対抗レースの海外チーム表彰

第1位 チームニュージーランド (クラブ代表 Mr. Tristan Campbell)

第2位 チーム香港 (クラブ代表 Mr. Alfred Okoth)

第3位 チームオーストラリア (クラブ代表 Mr. Andrew McAulley)

優勝クラブのチームニュージーランドにはJ J Y U会長特別賞のカップと賞状、2位、3位のクラブのチーム香港、チームオーストラリアに賞状が授与されました。



JJYU 会長特別賞



国際交流クラブ対抗レースの海外チーム表彰

特別表彰

「文部科学大臣賞状・賞杯」	「奥村純雄杯」	OP級上級者	幸野翔太	B&G 別府海洋クラブ
「国土交通大臣賞状・賞杯」	「小澤吉太郎杯」	OP級初級者	内田 歩	葉山町セーリング協会
「大分県知事賞状・賞杯」		レーザー4.7	河野 大陸	B&G 別府海洋クラブ
「別府市長賞状・賞杯」		国際 420 級	市野瀬・内田	大分県立別府翔青高等学校ヨット部
「大分県セーリング連盟会長賞状・賞杯」		FJ 級	甲斐・大川	大分県立別府翔青高等学校ヨット部



「文部科学大臣賞状・賞杯」 「奥村純雄杯」 OP級上級者 幸野翔太 B&G 別府海洋クラブ



「文部科学大臣賞状・賞杯」 「奥村純雄杯」 OP級上級者 幸野翔太 B&G 別府海洋クラブ



「大分県知事賞状・賞杯」 レーザー4.7 河野 大陸 B&G 別府海洋クラブ



「別府市長賞状・賞杯」 国際 420 級 市野瀬・内田 大分県立別府翔青高等学校ヨット部



「大分県セーリング連盟会長賞状・賞杯」FJ級 甲斐・大川 大分県立別府翔青高等学校ヨット部

国際交流個人対抗レース

O P級上級者	第1位	幸野 翔太	B & G別府海洋クラブ
	第2位	下石 雅楽	B & G福岡ジュニアヨット海洋クラグ
	第3位	上田 瑞	葉山町セーリング協会

レーザー4.7	第1位	Lumiere Tze Ng	Hong kong チーム
	第2位	William Mcaullay	Australia チーム
	第3位	河野 大陸	B & G別府海洋クラブ

国内個人対抗レース

O P級上級者	第1位	幸野 翔太	B & G別府海洋クラブ
	第2位	下石 雅楽	B & G福岡ジュニアヨット海洋クラグ
	第3位	上田 瑞	葉山町セーリング協会
	第4位	尾崎 健人	葉山町セーリング協会
	第5位	市橋 愛生	B & G福岡ジュニアヨット海洋クラグ
	第6位	肥後 滉佑	葉山町セーリング協会

O P級初級者	第1位	内田 歩	葉山町セーリング協会
	第2位	尾崎 友太	葉山町セーリング協会
	第3位	森田 莉央	B & G別府海洋クラブ
	第4位	杉田 慧人	B & G高松海洋クラブ
	第5位	齊藤 翼	B & G高松海洋クラブ

第6位	松浦 瑠	B & G 高松海洋クラブ
第7位	田口 湊大	B & G 別府海洋クラブ
第8位	佐藤 直輝	葉山町セーリング協会

レーザー4.7	第1位	河野 大陸	B & G 別府海洋クラブ
	第2位	勝田 千尋	B & G 高松海洋クラブ
	第3位	渡邊 桜香	ユースチーム東京

国際420級	第1位	市野瀬真理乃・内田桃花	大分県立別府翔青高等学校ヨット部
	第2位	桑野 遥・中堀こなみ	大分県立別府翔青高等学校ヨット部
	第3位	野上 諒・松尾一旦	大分県立別府翔青高等学校ヨット部

FJ級	第1位	甲斐滉貴・大川慶一郎	大分県立別府翔青高等学校ヨット部
	第2位	森田悠生・森本悠太	大分県立別府翔青高等学校ヨット部
	第3位	吉寄琴美・佐藤 遥	大分県立別府翔青高等学校ヨット部





(写真集)



